



平成 29 年 4 月 1 日

園長 酒井正美

平成 29 年度 港区立にじのはし幼稚園経営計画

—出会う、つながる、笑顔あふれる幼稚園—

1 教育理念

現在の社会は、グローバル化が進みつつあります。世界が、人や物、情報などの行き交う社会へと急速に変化する中、学校教育では、国際社会の一員として活躍する人材の育成が求められています。教育基本法において、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとされています。学校教育の始まりである幼稚園では、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められています。

幼児期の学習は、遊びや生活の中で自発的な活動としての遊びを通して行われます。安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培うことが大切です。

平成 29 年 3 月に告示された新幼稚園教育要領（平成 30 年 4 月 1 日施行）において、育みたい資質・能力として次の 3 点が示されています。

- (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」
- (2) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

これらの資質・能力は別々に育てるものではなく、人やものといった身近な環境を通し総合的、一体的に育むものです。また、幼児の生活は家庭を基盤としていることから、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されることが大切です。

にじのはし幼稚園では、家庭や地域と連携し、幼児期にふさわしい生活を保障し、小学校以降の生活や学習の基盤となる、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培っていきます。

2 めざす幼稚園像

平成8年度に港陽小学校、港陽中学校とともに誕生したにじのはし幼稚園は、今年、開園22年を迎える。地域の開発とともに開園したにじのはし幼稚園内外の環境は、年月を重ね充実をしてきている。海辺の自然、レインボー公園、第三台場等、環境を生かした教育が工夫されている。地区内唯一の幼稚園として地域の関心は高く多くの支えを得ている。港陽小学校、港陽中学校はもとより、近隣の保育園、諸機関との連携にも力を注いでいる。

<教育目標>

しなやかでたくましい子 人も自分も大切にする子 自分で考え行動する子

<目指す幼稚園像>

出会う、つながる、笑顔あふれる幼稚園

出会う、つながる、
笑顔あふれる子ども

出会う、つながる、
笑顔あふれる保護者

出会う、つながる、笑顔あふれる教職員

出会う、つながる、笑顔あふれる子ども像

- ① 自分のことは自分でする子ども
- ② 食べ物の好き嫌いなく、早寝・早起き・朝ごはん、自分の健康に関心をもつ子ども
- ③ 全身を使って遊び、安全に対する構えのある子ども
- ④ 好奇心・探究心をもち、何事にも積極的にかかわる子ども
- ⑤ 話す・聞く楽しさ、伝え合う喜びを味わえる子ども
- ⑥ 絵本や物語を楽しみ、豊かなイメージをもつ子ども
- ⑦ 自分の力で行動し、やり遂げる充実感を味わえる子ども
- ⑧ 人とかかわる楽しさを味わい、相手の思いに気付ける子ども
- ⑨ よいことや悪いことに気付き、考えて行動する子ども

出会う、つながる、笑顔あふれる保護者像

- ① 子育てに喜びを感じる保護者
- ② 子どものやる気を見守り、支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長とともに喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に積極的にかかわり地域とつながる保護者

出会う、つながる、笑顔あふれる教職員像

- ① 明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 気付き、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努める教職員
- ⑤ 子ども、保護者に信頼される専門性をもつ教職員

3 経営の重点

中期的目標（3年間を目途に取り組む目標）

- [1] 学校評価を基に、教育課程、年間指導計画、教育計画の整合性を見直し、幼児一人一人の遊びと生活の充実を保障し、教育目標の達成を目指した教育活動を推進する。
- [2] 教職員一人一人が、重点目標や経営方針を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力し、総合力を発揮する教職員組織を構築する。
- [3] 教職員の指導目標や指導の重点を明確にし、一人一人がキャリアデザイン、成長目標をもち、自ら学び成長し合う教職員集団を形成する。
- [4] お台場学園港陽小学校・港陽中学校と密接な連携を図り、互惠性ある交流教育を進める。
- [5] 保育園や高齢者在宅サービスセンターをはじめとした地域と幼稚園のつながり、信頼関係を貴重なものとし、子ども、保護者、教職員が地域とのかかわりの中で育つことを意識化した教育環境を構築する。
- [6] 近隣の公園や海辺などの地域環境を見直し、意図的、計画的に出会わせる教育の開発を推進する。

今年度の目標と取り組み

<安全な生活のために>

- [1] 毎朝、各担当教育環境の安全点検、幼児の動線を考えた安全点検を実施します。
- [2] 毎月、点検箇所の担当をローテーションさせた全体安全点検を実施する。担当より報告のあった危険箇所、不要物品などについては、即日対応します。
- [3] 毎月実施する小・中学校との避難訓練の他、想定を事前に知らせずに放送その他で伝える訓練を年5回実施し、教職員の対応力、判断力、組織として動く力を育てます。幼児には、話を聞いて行動する力、機敏に行動する力を育てます。
- [4] 各幼児のアレルギーの内容について全職員に共通理解を図ります。飲食する食品について、名簿を使用し保護者への確認・承諾を確実にを行い、管理職に提出させます。アレルギー対応の必要のある幼児のサポート保育おやつについては、職員朝会で確認した上、保護者から直接主任が預かり、庫内に保管します。

<人、もの、ことと出会う、つながるために>

- [1] 園内外の自然環境や栽培物、飼育物と出会い、かかわり、「すごい」(直接触れて感動する体験)「不思議だな」「どうしてだろう」(好奇心や探究心、大切にすることの気持ち)を育てます。
- [2] 近隣の公園、海辺等へ、「てくてくデー」として毎月1回以上徒歩で出掛け、心と体を十分に働かせます。(健康な心と体)
- [3] 遊びや生活の中で、してよいことや悪いこと、きまりを守る必要性が分かる、友達の気持ちへの共感、自分の気持ちの調整をする等、友達と様々な体験を重ねます。(道徳性・規範意識の芽生え)
- [4] 小・中学校、保育園との交流、園内での異年齢の交流、高齢者在宅サービスセンターの訪問等を通して、様々な人との関わり方に気付き、大切にされるうれしさ、自分が役に立つ喜びを感じ、自分や身近な人、地域を大切にすることの心を育てます。(社会生活との関わり)

- ① 安全点検票の項目、形式の見直し、改定。
- ② 毎回の避難訓練後の反省を基にした事後研修、アレルギー対応研修の学期に1回の実施。
- ③ 服務研修の月1回以上の実施。
- ④ 企画会主導による学級事務、業務の効率化。
- ⑤ 週1回の学年会、学年間打ち合わせによる指導内容の充実。
- ⑥ 園内外の自然物、教育資源を活用した教育活動の一覧表作成による可視化。
- ⑦ 交流活動の継続と機会の増加。それぞれのねらい、活動内容シートへの記入による整理。

- ⑧ 園内研究「道徳性の芽生えを培う—身近な環境・人との関わりを通して—」として友達との関わり、異学年との交流に視点をあて、道徳性の芽生えについて研究を進める。
- ⑨ ホームページの充実、玄関掲示板の活用、緊急配信メールの適宜活用、幼稚園公開や保護者・地域の方の行事への参加、参観を通し、幼稚園の情報を積極的に発信する。

<取り組みの評価について>

- [1] 各行事後の保護者アンケートの実施。
- [2] 年間の取り組みに対する保護者アンケートの実施。
- [3] 年間の取り組みに対する教職員による自己評価の実施。
- [4] 学校評議員による評価の実施。
- [5] 保護者・地域に対する、評価結果とそれに伴う考察等の公表。